

医療的ケアが必要な児童による分身ロボット OriHime を介した  
学校活動への参加にかかる研究について

## 1 主旨

新型コロナウイルス感染拡大の波が繰り返される中、医療的ケアを必要とする児童・生徒（以下「医療的ケア児」とする）のうち、基礎疾患を有することから登校が困難になっている児童・生徒を対象に、分身ロボット OriHime（以下「オリヒメ」とする）を活用した遠隔授業による学習支援や学校行事等への参加について、世田谷区と研究協定を締結している東洋大学福祉社会開発研究センター（以下「東洋大学」とする）と協働して研究事業を実施する。

オリヒメとは、生活や仕事の環境、入院や身体障害などによる「移動の制約」を克服し、「その場にいる」ようなコミュニケーションを実現する分身ロボット。カメラ・マイク・スピーカーが搭載されており、インターネットを通して操作し、学校や会社などにオリヒメを設置することで、周囲を見回したり、聞こえてくる会話にリアクションをするなど、「その人がその場にいる」ようなコミュニケーションが可能となる。

【参照：オリィ研究所ホームページ】

## 2 研究目的

新型コロナウイルス感染症の影響により登校が困難な医療的ケア児を対象に、東洋大学の協力を得て、遠隔授業による学習支援をはじめ、実技を伴う授業や行事、式典等の様々な場面でオリヒメを活用し、既存の電子会議システムとの役割分担やオリヒメがより効果的に活用される場面等を検証し、より幅広い学校活動への参加に向けオリヒメの活用がもたらす効果を明らかにする。

また、家族や教員、当該医療的ケア児が所属する学級の児童・生徒に対しても、医療的ケア児に対する指導や理解について、オリヒメの活用が及ぼす効果や影響を明らかにする。

## 3 研究方法

### (1) 対象者

医療的ケア児のうち基礎疾患を有することから、登校できない、または制限されている児童・生徒、その家族、教員、及び医療的ケア児が所属する学級の児童・生徒で研究の協力が得られた者。

### (2) 協力の同意確認

文書で研究目的や研究方法等を、医療的ケア児、その家族、在籍児童・生徒の保護者に説明し、文書で同意を得るものとする。

(3) 実施期間

令和3年5月末から令和4年3月まで

(4) 研究場面

通常の授業（座学）のほか、話し合い活動（班でのグループワーク）、実技を伴う授業（図工、家庭科など）、行事（運動会、学芸発表会）、式典などを想定。

(5) 活用効果の収集方法

①医療的ケア児、その家族、担任教員、補助教員

個別のインタビューを活動開始期、活動中期、活動終了期に実施し、オリヒメの効果や課題等を収集する。

②所属する学級の児童・生徒

学級会活動等においてグループインタビューを実施し、オリヒメで出席している児童・生徒と一緒に授業を受けた感想や、気がついたことを収集する。

4 役割分担

東洋大学は研究の実施や報告書のとりまとめ、オリヒメのレンタル料を負担し、教育委員会及び学校はインターネット環境の提供や遠隔授業等の実施、保護者との調整を行う。

5 研究成果の公表方法

9月頃を目途に、東洋大学で出版が企画されている機関誌へ研究成果の中間報告の掲載を予定している。年間の研究成果は、東洋大学にて研究報告書を作成し世田谷区教育委員会に報告する。

なお、公表にあたり、研究に参加する学校名や医療的ケア児の氏名等は個人が特定されないように配慮する。また、動画、画像等についても個人が特定されないよう加工する。

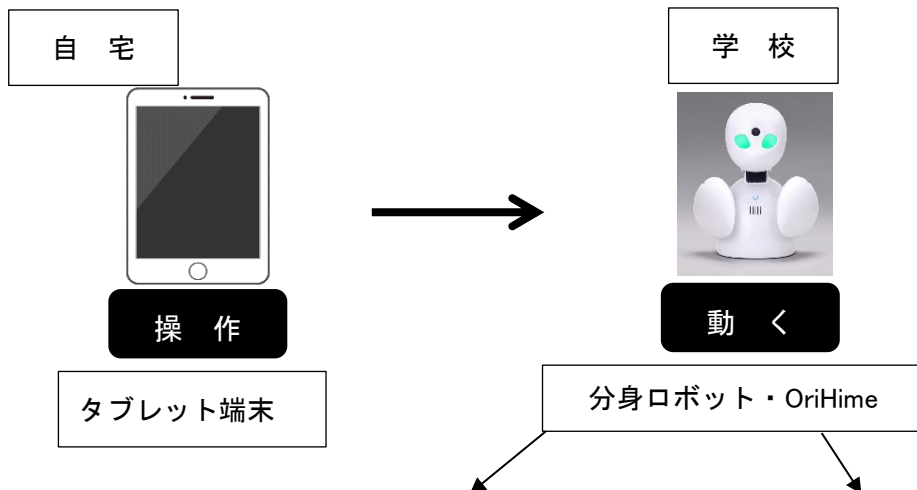
6 今後の方向性

研究の結果、登校できない、または制限されている児童・生徒の学びの機会の確保等について、今後の可能性について検討する。

7 今後のスケジュール（予定）

令和4年4月 文教常任委員会報告（研究成果報告）

【参考（オリヒメのイメージ）】



画像提供：(株)オリィ研究所